

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071500247		
法人名	有限会社メディカルサービス有田		
事業所名(ユニット名)	グループホームゆりのき苑 Aユニット		
所在地	和歌山県有田市千田403-1		
自己評価作成日	平成23年9月30日	評価結果市町村受理日	平成23年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071500247&amp;SCD=320&amp;PCD=30">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3071500247&amp;SCD=320&amp;PCD=30</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成23年10月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社内や社外での研修を受ける機会を設け、個々の職員のスキルアップに努めています。地域の行事に参加したり、苑での行事に近隣の方々を招いたり助けてもらったり、日頃から買い物や散歩に外に出て行く事で地域にとけ込んだ生活を送っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者と職員との間に笑みのある自然な付き合いが生まれており、交わりの豊かさを感じることが出来る。管理者は職員指導において個々の経験や力量に応じて適切に指導し、信頼関係を築いて業務に臨んでいる。また職員間の関係も親密で、よいチームワークが保たれている。「徘徊」「問題行動」などの用語を避け、事業所の理念である「自由・尊厳・歓び」を実現するよう努力がなされている。食事を大切にする運営に努めており、献立、買い物、調理、片付けなどに入居者の参画を図り、内容も新鮮な魚を中心に地元食材を活用し、豊かで質の高い食事の提供がなされている。孫、ひ孫の来訪に備えて幼児用のスリッパを常備するなど、家族や地域住民を積極的に迎え入れようとする姿勢が伺える。併設する2つのユニットが、それぞれ独自に工夫して運営をしつつ、必要に応じて協力し合うことのできるよい協働の関係が構築されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由」「尊厳」「歓び」のある生活を継続的に支援するという理念を掲げ、職員は日々取り組みの中、事業所理念の確認を重ねることで共有を深めサービスの向上に努めている。	理念はリビングに掲出し、「自由・尊厳・歓び」の明快な理念を、「個々の入居者の特性を理解し、尊敬の念をもって接すること」として実践し、日々のミーティングや業務において管理者・計画責任者から発信し確かめ合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に開かれたホームを目指し、日常的に散歩や買い物などに出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり、話をしたりしている。また、自治会加入はもちろんのこと、小学校の運動会やカラオケ大会など地域の行事には積極的に参加し、地域の方々との交流を深めている。	開設から8年を経て地域に定着し、周囲からの理解が進んでいる。町内の清掃活動や地域のカラオケ大会、学校行事への参加など積極的である。来年には町内会の班長も予定されている。来訪者の受け入れも積極的に開放的な印象を与えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々苑外に出て地域の方々と接する事や地域行事に参加することで、認知症高齢者への理解が深まり、高齢者にとって住み良い地域となるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は余り開催できてはいないが、地区の代表者、利用者の家族、市職員の方々との情報交換は密に行っている。	市内にある同一経営のグループホームと協同して開催している。回数を増やすことが望まれるが、地域代表、行政、利用者家族など構成は適切であり、今夏に経験した台風避難を協議題とした有益な会議が開催されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	苑の状況や各利用者の状況を報告し助言を受けたりし、情報交換を行いサービスの向上に努めている。	入居者の認定調査、生活保護受給者の受け入れなどのため市担当者の訪問がなされており、連携が図られている。随時の報告により情報の提供に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の知識を再確認・再認識する為研修に参加したり、勉強会やミーティングで確認し合い防止に取り組んでいる。	県主催の研修会に職員が順次参加し、受講後は回覧等により学びが共有されている。「ちょっと待って」などの言葉による行動制限にも気を配っている。出入口はセンサーや鍵など使用せず、不意の外出も地域住民の協力が得られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の知識を再確認・再認識する為研修に参加したり、勉強会やミーティングで確認し合い防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は機会あるごとに職員への説明を行っている。外部研修が行われ無いため、各自での勉強を指示している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時や電話をかけたとき等に、何か要望や不満はないか意見を出してもらえよう働きかけ、出てきた意見を運営に反映させている。	面会時には常に家族の思いを聞き取るよう心掛けており、家族の安心感につながっている。リハビリや健康の維持に関する要望を得ている。行き違いや意見の相違は対面して解決するよう努め、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員全員でのミーティング及び会議を開催し、意見の収集をし反映している。	毎日の申し送りやミーティングにおいて、職員が自由に発言できる雰囲気を作られている。管理者への相談も日常的に行われ、2か月に1回の内部職員研修も意見収集や提案の機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のストレスにならぬよう勤務シフトを作成している。 資格取得に向けた支援もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加には順次行っており、内部研修も随時開催し、サービスの質の向上を図れるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は外部研修へ参加することにより交流を図り、ケアに活かしている。管理者は同業者との食事会をしたり、訪問をしたりし意見や情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、また、入所前見学にて職員・利用者の方々と交流を持ってもらい、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯について話しを聞くようにしている。話しを聞くことで事業所としてはどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活上利用者の個々の得意分野を發揮してもらえよう場の提供を心がけている。季節の行事の仕方、言い伝え、昔の知恵を授けてもらう等、学ぶ事も多く、共に支え合える関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態を、毎月1回「ゆりのき通信」を発行し報告するとともに、暮らしぶりなや行事等についても写真やコメントをつけて報告し家族との関係が途切れないように留意している。来苑時は、本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	昔から利用している美容院や商店を利用したり、住み慣れた地域にドライブしたりしている。	近隣からの入居者が多く、友人宅の訪問、墓参、外食、コンサートなど、希望に応じて家族とも連携して実施している。面会時間の制限はなくいつでも訪問できるよう配慮されており、遠方からの家族の宿泊も受入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について、すべての職員が共有できるようにしている。そして、みんなで楽しく過ごす時間や気の合うもの同士で過ごせる場面づくりをする等、利用者同士の関係がうまくいくように、職員が調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された利用者とその家族に、いつでも遊びに来てもらえるよう季節たよりを送り、事業所に来てもらったりしている。他の事業所へ移られた方には、利用者と一緒に遊びに行ったり、遊びに来てもらう等継続的な付き合いができるよう心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	SOAP方式の記録を活用し、本人の毎日の表情・言動を観察し記録して希望や要望を把握するように努めている。	SOAP方式によるアセスメントを導入して2年となり、意向の把握が統一して行われている。発言の少ない入居者には表情、表現、発声などに注目し、望ましい援助ができるよう配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートにより把握したり、暮らしの中での会話、家族よりの聞き取り等にて収集し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメント・ケース記録・モニタリングの活用にて把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録を基に本人のニーズを介護計画に反映し、期間に応じモニタリングを行い状態変化時は見直しを行っている。	入居者の状況変化に応じ、最長6か月として必要に応じてモニタリングを行い、計画の見直しがなされている。計画は対面して家族に説明し交付している。職員の意見は随時のミーティングで収集し計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・申し送り帳・毎朝の申し送りの実施により、職員間で情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の状況に応じて、通院や外出等必要な支援に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センターの職員と交流を持つことで、周辺情報や支援に関する情報交換、協力関係を築けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関等を優先し、受診できるよう支援している。	本人・家族が希望する医療機関を優先し、定期受診においては送迎、情報提供などの支援を行っている。施設には2週間に1回、嘱託医が訪問している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各医療機関の看護師等への相談を随時行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、医療機関の医師・看護師・相談員等と連絡は密に情報交換し、早期退院に向けて連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、重度化・終末期の対応があることを説明している。本人をとりまく関係者との話し合いは密に行っており方針は共有している。主治医・看護師・薬剤師等多職種に終末期の対応ができるよう態勢を取っている。	施設で4名の看取りの実績があり、看取りの場所の希望を在宅から施設に変更した入居者もある。看取りの充実のため医師による24時間の連絡体制を確保している。市からの要望を受けて看取りの指針、意向の確認について整備を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、応急手当の勉強会や外部研修にて、体験・体得・習得するようにしている。急変時の対応については、連絡体制を掲示、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者と共に避難訓練を行っている。近隣、民生委員の方にも協力をお願いしている。	消防署の立ち会い、近隣住民を誘っての定期的な避難訓練を実施しており、昨年度にスプリンクラーの整備も完了し火災に備えている。	今夏、台風や津波など河川による水害が、施設固有のリスクとして確認された。今後は河川氾濫を想定した水害対策に具体的に取り組み、マニュアル作成や訓練実施により災害に備えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を損なわないように声掛けには十分に配慮し、自己決定をしやすい言葉掛けをするように努めている。	職員は入居者に対し常に積極的に語りかけ、自然で自由な会話が生まれている。トイレや入浴の声掛けは、聞こえも考慮し、個別に理解しやすい用語を用いてさりげなく誘うなど、配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が希望を自由に表現できるような環境を作り、自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人に希望を尋ねたり、その日・その時の体調に配慮しながら過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が望む髪型や化粧が行えるよう支援しており、衣服・持ち物に関しては利用者の好みのスタイルを把握し、自己決定がしにくい方には一緒に考えて、本人の気持ちにそった支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の準備等を一緒に行い、食事への楽しみとしている。本人の希望を取り入れ食事を提供している。	入居者が能力に応じて買い物や食事の準備に関われるよう努めている。両ユニットがそれぞれ工夫した献立は豊かで、食材や匂い、音も意識して調理している。夕食には地元の新鮮な魚を多く使い、食事を大切にした質の高い運営となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重と摂取量で栄養状態を確認している。栄養状態が悪い時は高カロリーの補助食品の提供も行っている。お茶を常に飲めるように置き摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔を清潔に保つよう個々の能力に合わせ声掛け・見守り・介助と支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時の癖やパターンを把握することで一人ひとりの能力に合ったパットやパンツ、おむつを利用している。	排泄パターンを把握してトイレに誘導し、リハビリパンツを主に利用して排泄の自立に努めている。入居者個々に対応し、昼間・夜間のパットの使い分けにより、快適に生活できるよう配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の入所者においては、主治医と相談し指示を仰いでいる。水分摂取等に注意を払い、便秘に良い飲食物も提供、または散歩や体操も促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	仲の良い利用者同士で入られる方や湯量・温度を好みに合わせ希望に合わせて入浴してもらっている。	日中を中心に入浴しているが、曜日、時間、回数の制限は設けず、希望に応じて入浴できている。自立して入浴できる入居者は、就寝前にも利用できるよう準備されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく規則正しい生活リズムが取れるよう支援しているが、利用者の希望・体調・習慣等を配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	援助確認表・服薬管理ノート・申し送りノートにより把握し支援している。疑問点あれば、医師・薬剤師にはいつでも連絡が取れる態勢があり相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や特技等を活かして、生活上での役割が楽しみとなるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望にそって外出する場合や、日常の買い物へ一緒に行っている。また、利用者の楽しみごとに合わせて、外食やお弁当を持って季節の花を見に行ったりして外出の機会をつくっている。	買い物、趣味活動、地域行事など、積極的に外出の機会を設けている。手作りのお弁当を持って出かけるピクニックや食事のための買い物など、行事以外の日常的な外出を気軽に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力に合わせた金銭管理を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置しいつでも掛けることができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのような共有空間では利用者間でのトラブルが居心地を悪くする原因になる事があるが、職員が察し声掛けや誘導することで居心地の良い空間の確保に努めている。	季節の設えなどは過剰な演出にならず、自然に整えられている。職員向けの掲示などはステーション内壁に掲示し、家庭らしさを保つよう配慮されている。リビングで過ごす入居者が多く、居心地の良さが伺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの好きな場所や状態を把握し、好まれる空間を確保するよう働きかけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた物や、馴染みの物を使用してもらい、タンスやテレビを使いやすい場所に置いてもらうことで居心地の良さを配慮している。	入居者自身で清掃する居室、職員が支援する居室ともに清掃が行き届き清潔である。私物も適度に持ち込まれている。彩光についての希望により希望するカーテンを使用いただいたり、家具の配置にも配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの日々の状態を把握し、リスクを考えつつなるべく自立した生活を営めるよう支援している。		